

令和7年度 第2回 新見市地域公共交通会議議事録

日時 令和7年9月25日（木）13:30~15:40

会場 新見市役所南庁舎 1階会議室1C

1. 開 会

会議の成立を報告

2. 会長挨拶

3. 報告事項（1件）

1) 芸備線再構築協議会及び幹事会について

- ・ 事務局より資料1・2により報告

（会 長） 45ページのところに、日程がついていてこういう形でやるのかなという話なんです、実証実験Aは1年やってると、令和8年度の、途中まで行くような感じになりますけども。

これ8年度中に、本当は3年間でということなんで結論出すという話ではあったと思いますけども、そういう方向で動いてると、要するに8年度末には結論が出て、9年からはそれが実行されるという認識でよろしいでしょうか。

（事務局） 構成員間で、概ね3年を目処にということで、令和8年度末に向けて、一定の結果を、出していくということは合意されておりますが、様々な要因がございますので、スケジュールありきではなくて、議論を深めていくということも、構成員間で話し合いをしております。
なので3年間、8年度末に向けて、協議を進めているというところでございます。

（会 長） 実証実験AとBがありますよね。
Aの方が鉄道を強化するということで少し便数を増やしている。
Bの方はバスの方の実験だろうと思っているんですけども、我々に直接的に目の前で関わってくるのはこのBの方かなと思っていて、このBの方って、まだ具体的な検討何も始まってないということではないんですかね。
要は、この実験のためだけに何か特別に走り始めるみたいなことがあるんだろうと思うんですけども、それってどんなものが今議論されてるのかなっていうのを教えてください。

（事務局） 実証事業Bについてですが、現時点での議論の進捗状況をご説明しますと、皆さん大体別の交通モードという言われ方をしますと、バスが頭に浮かぶのじゃないかなと思うのですが、現在はその交通モードを何にするかというところも含めて議論をしております。
その議論をした上で、例えばバスとかいう結論に、結びつくのかなと思います。

ますが、今度はそれを使って実証 A と比較していくっていうところが出てくると思います。

その検証方法について協議会の構成員間で、こういった方法が効果が測れるのかというところを検討している途中でございます。

4. 協議事項（5 件）

1）新見市予約型乗合タクシー「哲多乗合タクシー」の本格運行について

2）ふれあい送迎バスの路線廃止について（哲多地域）

・ 事務局より資料 3・4 により説明

（委 員） 乗合タクシーに伴いふれあい送迎バスの廃止ということなんですけど。この期間ふれあい送迎バスを利用された方はほとんどいなかったとか何かその辺の状況はわかりますでしょうか。

（事務局） ふれあい送迎バスは、昨年の実証運行開始のときから休止をしておりますで、1 年間の休止をふまえて、本格実施運行となることに伴いまして、ここで廃止するものなので、去年 1 年間は走っておりません。

（委 員） 神郷の方だと朝夕の市営バスが残った状態で乗合タクシーをされてるかと思うんですが、哲多の方もそうなるんですかね。

（事務局） 神郷地域と同様に哲多地域におきましても朝晩の市営バスは残っております。

あと市営バスとは違うんですけども、備北バスが運行されてる路線バスの方もそのまま残っているというような状況でございます。

（委 員） 哲多のふれあい送迎バスはいろいろ路線があって 1 週間されたと思うんですが、1 日 5 台の乗合タクシーの確保と比較した場合コストというのはどうなってるんでしょうか。

（事務局） コスト面から言いますと、今まで 1 日 1 路線ということで走ってたのと比べますと、やはりコストの面においては高くなっているというのが実情ではございますが、乗っていただける方についても、全然数が違うんです。先ほど説明させていただいた通り、今まだ半年弱なんですけどもうすでに 1300 人の方が利用されているということで、ふれあい送迎バスでしたら令和 5 年度の実績でいうとおそらく年間 200 人ぐらいだったと思うんです。コスト的にはたくさんかかるようになるんですが、おうちの方まで行くということでのサービスの向上っていうのがありますので、その分はちょっと致し方がないのかなというふうに考えております。

（委 員） 利用者当たりのコストは下がってるっていう考え方ですね。それからもう 1 点なんですけど、子供の料金 150 円で手帳を持ったら半額 75 円ということですか。

（事務局） その通りでございますが、切り上げで 80 円となります。

（委 員） 53 ページからアンケートを紹介いただいているんですけど 55 ページの、公共交通の利用状況ってこれのちょっと見方がよくわからないんですけど。

公共交通を利用した利用していないっていうのは、どのぐらいの期間のイメージで聞いているものなんですかね。

要は、1週間の中で1回使ったなら、もう利用したってなるのか。

その1ヶ月で1回使ったらもう利用者ってなるのかちょっとどういう聞き方をされてるものか教えてもらえますでしょうか。

(事務局) こちらの質問につきましては1年以内に利用したことがあるかどうかという質問になっております。

ここには載っていないんですがその後の質問で、何日間利用したか、というような質問は別でとるような形になっております。

(委員) 52ページに、利用状況ということで、1日当たり何人というのは出てるんですけど、乗合タクシーの乗合率というのはどんなもんなんですかね。

他の地域と比べて高いとか低いとかそういうのもあれば教えて欲しい。

(事務局) こちらの方には乗合率っていうのは、確かに書いてません。
1日あたりっていうのは6台運行してましてその合計ということで書いてます。

乗合率といたしましては、実質には、1.5人前後ということになってます。他の地域と比べますと、若干少ないかっていうところでございまして、今一番多い乗合率で言いますと、神郷地域・新見北部地域は、利用率はすごい高い状況ではございますが、全体といたしましては平均かちょっと低いかというところがございます。

(委員) 他の地域での今までの流れで言うと、実証運行から本格運行になって、認知度がさらに上がっていけばいくほど乗合率が上がっていくみたいなそんな傾向ですか。

(事務局) そうです。それと昨年度からAI配車システムを入れたので、その関係で若干上がっているということもあると思います。

(委員) 本格運行で、運行区域を変える話で井倉駅を乗り降りできるようにしてくださるということで、我々もありがたいと思うんですけど、石蟹駅は需要はどうですかね。

何となくありそうかなと思ったんですけど石蟹駅が入っていなかったの何か理由とかあれば教えてください。

(事務局) 石蟹駅については、この図面を見ていただきますと、まず指定乗降場所のエリアには入ってません。井倉駅はもともとエリアに入っていたので、乗降場所と設定しておりましたが、石蟹駅は、エリアに入っていないので、サンパークは、区域外の指定乗降場所ということにしておりますが、石蟹駅はしていなかったということが、現状でございます。

(委員) 哲多にお住まいの皆さんの需要っていうのはあんまり分かってなくて恐縮ですけど、石蟹駅が使えた方が良くっていう声はないんですか。

(事務局) 今まで乗合タクシーが走ってなかったときは、哲多地域の63ページの図で言うところの、哲多支局とか本郷地域からもう少し南からの方については、

石蟹駅を使われてるっていうのがたくさんありました。

蚊家の方も、石蟹駅ということです。

あと井倉地域に近い哲多地域の右側のエリアについては、前から井倉駅の利用が多かったということで、今までも行ってなかったっていうのもあって、そこから先の、例えばサンパークに行かれてから、「ら・くるっと」で行かれてみたり、タクシーで石蟹駅に行かれてみたりっていう方は何人かいらっしゃると思うんですけども、石蟹駅を使う場合っていうのが、岡山方面へ出られたいということがありまして、説明会の中でも井倉駅に行っていていただくことで、1 区間分の金額は安くはなるといった話をさせていただいて、それから、石蟹駅はあまり話に出てこなくなりました。

そういうこともありまして、石蟹駅は除かせていただいて井倉駅を入れていただいているということでございます。

(委 員) 今後、どこかでまた見直しのタイミングとかあるようであれば、鉄道とつないでいただいた方が、利用促進も考えやすいかなと思いますのでぜひご検討をお願いできればと思います。

(事務局) 本格運行ですべてが決まるというわけではなく、そういう声が出てきましたら柔軟に対応させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

【協議事項承認】

3) 新見市予約型乗合タクシー「新見南部乗合タクシー（仮称）」の実証運行について

4) ふれあい送迎バスの路線休止について（新見南部地域）

・ 事務局より資料5・6により説明

(専門員) 73 ページにあります(8)の運行車両と事業主体運行主体と書いてありますが、この運行主体でタクシー事業者を予定というところなんですけど、運行開始が11月からで、もう10月になりそうというところなんですけどこれは、今から調整してタクシー事業者が受けていただけるかどうかというのは大丈夫なんですか。

(事務局) こちらの方では明確にまだ手続きといたしまして、随意契約ということで今うちの方で準備しているんですが、その部分がまだ終わってないということでこういう書き方をさせていただいています。

(専門員) わかりました。その上で伺いするんですけども、運行車両4台これ運行事業者の所有車両を、用いるということで場合によったら緑ナンバーのタクシーも用いるのかと思うんですけど、これは普段のタクシー事業に影響が出ない範囲内の4台という認識でよろしいですか。本来のタクシー事業に影響が出るのはよくないと思ってるんですけどそのあたりの状況だけ教えてください。

(事務局) こちらの方もですね、協議を行ってる中で、実際そのタクシー事業者4社

おられるんですが、それぞれの方に聞いて調整させていただいたところそこには影響はないというところで確認はしております。

(委 員) 備北バスの運行ダイヤが、一部日中の部分が休止になるということで書かれてるんですが、平日だけとはいえ観光利用もあられるのかなと思うのでその辺の、告知なりをしっかりとされる予定はあるんでしょうか。

(事務局) おっしゃられる通り乗合タクシーが運行するのが、平日のみとなっておりますので、備北バスの便を休止するのは平日のみ、土日につきましては、このまま運行することとなっております。

また、平日につきましては、例えば観光利用の来訪者がいらっしゃったときに、例えばですね、いわゆる満奇洞線でございますが、満奇洞に観光に行かれる場合だと、あらかじめ井倉駅に乗合タクシーを呼んでいただきまして、乗合タクシーを使って、満奇洞まで行っていただければというふうに考えております。

乗合タクシーは、当然市民の方だけでなく、どなたでもご利用いただけます。ただ、井倉駅に着いてから呼んだのではそこまで来る時間のロスがあってはけませんので、例えば岡山駅に到着したときに、もう井倉駅到着時間に合わせ、乗合タクシーを配車をしていただきまして、井倉駅で降りたらすぐ乗れるようにというところを、観光で来訪される方にも、市の方もPRをしていく必要があると考えております。

(委 員) 特に外部からのお客様になるかと思いますが、その辺りしっかり事前に登録して利用されることを告知しておかないとちょっと使いづらいのかなと思いますので、そこしっかりしていただければと思いますのでよろしくをお願いします。

(会 長) 満奇洞の紹介されてるホームページだとかですね、そこにしっかり書かないと、遠くから来た人はそんな状態になるなんて想定もしてないはずなので、満奇洞を推しているページでいろいろあると思いますので、そこに全部書いていただくように、お願いしたいなと思います。

(委 員) バスの満奇洞線の休止に関する日程的なものは、いつからこれは休止という方向で考えておられるか確認をお願いします。

(事務局) こちらにつきましては、今までですと市営バスの休止であったり、ふれあいバスの休止ということで、市が運行主体になりますので、こちらの方は11月1日から運行休止ということをしていたんですが、今回につきましては、民間の運行事業者なので備北バスの休止部分については来年の4月、ふれあいバスについては、11月から即時休止ということで考えております。ダブる期間があるんですが、周知期間等も含めまして、半年間は同時並行で動かしていくということになっております。

(専門員) 先ほど、乗合タクシーをあらかじめ井倉駅に呼んで、満奇洞へ行けるようにしておくっていう話があったんですけど、その他の箇所にも行くことができるんですか。

- (事務局) 基本的には 72 ページの下 (3) の指定乗降場所に書いてあるところが乗降の対象となりまして、あとこれプラス、ご本人のご自宅というのが入ります。
- 例えば周遊をするような場合ですと、1 乗車が 300 円という整理にしておりますまして、この 1 乗車というのが、例えば目的地に行く間に A T M でお金をおろすなど概ね 5 分以内の立ち寄りでは OK なんです、そこで 30 分用事をして、次のところに行くという場合は、2 回乗っていただくというような整理としております。
- (会 長) 先ほど、ご本人の自宅までは行きますみたいな話だったんですけど、ご本人じゃない人の自宅には行けないんですかね。例えば友達だとか、関西から来て何とかさん家へ行きたいみたいな人だとか、要は、こういう公共施設みたいなところしか行けない話なのか、個人宅行けるのかみたいな話なんですけど。
- (事務局) 基本的には、友人のお宅だとかっていうことは今の段階では認めておりません。それを認めてしまいますとタクシー事業と全く同じようになってしまいますので、そこは差別化ということで、行かせないということでしております。
- (会 長) それが多分適切なんだろうと思いますので、むしろそれをきちんと強調してる、PR をしてくださってるかなっていうのが心配になりまして聞いてみましたけども、よろしくお願いします。
- あともう 1 つだけ、これ今回民間のバス路線を原則として休止ということにしておりますけども、休止した場合に、その車両だとか運転手だとか、これはどういうふうに活用されるんでしょうか。
- ただでも乗務員不足だとかみたいな話あるんだけど、ここで止まった車両は別のところをもっと走って便利なところができますみたいな話なのか、ただ単に休んでるのか、どのような形になるんでしょうか。
- (事務局) これは次の議第 5 号にも関係してくることなんですけれども、こちらの、路線の休止を活用して、次の議案第 5 号の方に回させていただくということで、車両の方とかまた調整はいるんですけれども乗務員の方についてはそういうことで、運行事業者とは調整をさせていただいております。
- (委 員) 質問とは違うんですが、3 号 4 号、決まった上でなんですが、今、法曽地区が哲多の方から外れるということなんで、運行事業者がエリアで違うことを、そこを明確に 11 月から変わるんだよっていうことを周知していただければと思いますので、よろしくお願いします。
- (事務局) そちらの方につきましては 11 月の市報であったり、あと車内掲示も今からしっかりさせていただいて、広報に努めさせていただきますと思いますのでよろしくお願いいたします。

【協議事項承認】

5) 市街地循環バスの利便性向上に向けた路線、運行方法等の追加及び変更について

- ・ 事務局より資料7により説明

(委 員) 内回り外回りができて大方2倍ぐらいの、運行になるのかなとは思いますが、タクシー屋さんとしてはですね、市街地中心部の、仕事を非常に圧迫することがまた1個増えるんじゃないかなということで、懸念があります。

そもそも「ら・くるっと」ができたときに、僕反対したんですが、全会一致で決定って報道されまして、反対しなかったのかって僕すごい言われたんすよ。

ああいう報道されると非常に困りますんで、反対されましたっていうことを言って欲しいなと思ったりもしました。

今あるものを便利にしていくのは非常にいいことだとは思いますが、便数が増えることについてはちょっと嫌だなと思いますが、いいことだとも思います。

ただ先ほど乗合のことでも言われてましたけど、タクシーの確保、人の確保もですね、併せてどうしても日中の仕事メインになってきますんで、その仕事がなくなっていくと、どんどん夜の仕事も、タクシーが回せなくなる。

今現在でも1台しか動かしてないんですけど、それについても、お店とかお客さんからはタクシーおらんからどうのこうの言われるんですが、うちもお客さんいないから増やせないっていうのもありますし、それが同じように日中もうこれで仕事が減っていくと、またタクシーの台数も一緒に減っていったら、それこそ乗合に回す人なんか、割けないんじゃないかみたいなことが起きかねないということでもありますんで、ぜひその辺りはちょっとバランスを考えて、何かやっていただければなというふうには思います。

また今現在ですけど市街地を無料で運行する移送サービスみたいなのが、やっています。それが春先までやると聞いておりますが、さらに聞いているのはそっから先も無料でずっと運行していこうみたいなことを聞いておりますんで、もうなんかちょっと嫌だなっていう感じしか思っておりません。その辺、無料なのでね、行政から文句言う筋合いはないんだと思いますが、行政がそれを推進する方に回ってるんで、ちょっとそれはどうなんだろうっていう部分もありますんでちょっとそこは市の中でもよく考えていただければと思いますのでよろしくお願いします。

(会 長) タクシー事業者さんとして非常に大事な話、今出していただいております。

やっぱこう全体のバランスみたいなのが当然あって、これが便利になるっていうのは非常にいいんだけど、実は同時にタクシー事業者さんをお願い

して、やってるサービスもこれからどんどん増えていくんじゃないかなと思っておりまして、先ほどまでの1号から4号までの議案ですね。

あれまさにタクシー事業者さんをお願いして、サービスしてもらうという話ですので、要するに今までのタクシー事業者さんがやってた仕事から少し軸足が変わってくると。

市内全体のモビリティとかね、移動手段、これがどうバランスをとり直すのかっていうようなところを考えなきゃいけないので、「ら・くるっと」だけ考えていては実はおかしい話だし、タクシーも今まで通りの仕事では実にはなくなるかもしれない。

そのあたりも実は事業者さんにもよく説明して、検討していただかなきゃいけないし、先ほど今出てました無料の話ですね、無料の話なんかもこれかんでとなると、やはり相当にいろんな人が関わってきますので、影響しますよね、ぜひ、ちょっとこう広い視点でバランスをとるということを考えていただきたいと思いますと思いました。

(委員) 路線の内回り外回りっていう呼び方、これは、利用者にとってしっくりくるんだろうかというのは、ちょっと思ったんですけど、多分検討段階でいろんなプラン検討されたって話あったと思うんですけど、何かこう、呼び方というか、結局、さっきおっしゃったように、わかりにくさみたいのもちょっとはらんでる部分があるじゃないですか。
そういうのはできるだけ利用者にとってわかりやすく伝えるって大事だろうなと思って。

(事務局) 何かネーミングみたいな議論が、今までの過程でありますでしょうか。
ネーミングにつきましては、これあくまでも仮称で、何かいい案がありましたら、おっしゃっていただければ。

「ら・くるっと」もそもそも公募で決まったバスの名前なんですけれども、こちらの方も、非常にわかりやすいバスを目指すっていうこととなれば、例えば名前もそうなんですけれども今バスの色が緑色になってますんで、内回りのルート、例えばオレンジ色にするでありますとか、そういったことで差別化を図ればいいかなというふうには考えております。
その名前につきましては何かいい案がありましたらまた教えていただければ大変助かります。

(委員) 私もアイディアを持ち合わせてるじゃないんですけど、多分新見の駅とかでも結構お客さんから聞かれるかなと思いましたのでちょっと聞いた次第です。

あとこれは全然鉄道とは関係ないんですけど新見市の公共交通の体系としては、基本的に市の周りがずっと、さっきも議論してたような乗合タクシーというのをやって、それをこの市街地に繋いでいくっていう設計になってると思うんですけど、サンパークは、乗り継ぎ拠点となっていて、哲多や新見南部とも繋がるってふうになるんだと思うんですよ。

今、多分現状のプランは新見北部は横見でしたかね。

なんかそういう乗継拠点が決まっていたと思うんですよね。

で、今回その黄色い線のやつが、そこまでたどり着いてないじゃないですか。

そうすると、要はその乗り継ぎチャンスが、その人は少なくなっちゃうのかなと思うんで、北部の乗合タクシーの乗り継ぎポイントのことも合わせて議論したほうがいいんじゃないのかなと思いましたので、ご検討をお願いできればと思います。

(事務局) おっしゃられる通り、現在、神郷と新見北部につきましては、横見というところまでで、上市市民センターにも行くんですけどもそこら辺が北限となっておりますので、せっかくバスが2本走るんであればで、内の方に入れてきていただいたら、回遊性も上がると思います。

そこら辺につきましても、タクシー事業者やバス事業者と、今後必要に応じて、検討していかせていただければというふうに思っております。

(委員) 私も仕事の関係上、高校生を対象にしております、これぜひいい機会にしてもらいたいというのが新見市内の子供の数の減少、高校の存続云々かんぬん、いろいろと出ておりますけど、子供たちが、この放課後にこのバスを利用しているっていうのはあんまり、登下校に使う生徒がいるんですが、寮生などがこれを使ってサンパークの方に行く、或いはカラオケボックスの方に行く。そういう子供たちの放課後の楽しみに利用しているっていうのはあんまり見かけないような気がします。

遊べ遊べというわけじゃないんですが、ぜひこういう、路線の変更であったり、路線の増設であったり、そういういろいろと、新しくルートをこうやって決めていただける中で、ぜひ3時以降7時までぐらいの、時間帯が、小中高校生を主体にした路線や時刻表にしてもらえれば、利用度が上がっていくんじゃないのかなあということを少し感じました。

あわせて、子供たちがこの「ら・くるっと」の路線図や、時刻のことで、どれだけ認知しているのかなと。

それがわからないと利用しようと思っても利用できなくて、また利用するときに都合のいい時間帯に走ってないと、結局使わなくなってしまうと、そういう利便性を上げるための工夫をしていただければ、中高生がより利用しやすくなっていくんじゃないのかなというふうに思います。

また路線についても、ちょっと細かいことなんですが、さっき新設される路線で、市民グラウンドの手前で、運動公園口まで行くんですが、それから上へトレーニングジムがあったり、利用する学生もおります。

運動公園口から、市民体育館までは結構距離がありますので、もしそこまで行くんなら、ちょっとバスを延ばしてもらった方が利用しやすくなるんじゃないのかなというふうにも思います。

それから、もう1つ、げんき広場に向かう時刻・路線についても、結構ブ

ールとかに行きたい、子供たちもおります。

そういうことが、ニーズに沿えるようならば、より利用度も高くなっていくのではないのかなあと。

共生高校には、留学生がいて、忙しい留学生もおれば、暇な留学生がいて、今の市民グラウンドで運動したい子、或いはプールに行きたい子、或いは、ちょっとお買い物にサンパークの方に行きたい子、またはまなび広場の図書館を利用したい子、そういった子がおりますのでその辺をちょっと視野に入れた時刻表を作成いただくと。

そしてそれをしっかりとアピールしていただいて、利用促進するような働きかけをしていただくとありがたいなというふうに思っております。

(事務局) 高校生の、特に寮生ということで、あまりこう新見の地元ではない生徒さんですと、「ら・くるっと」っていうのもなじみがなくて、そのままここにこられて、あんまり、知る機会もないのかなというのを今改めて感じましたので、もし叶いましたら、例えば寮生の方を対象にした「ら・くるっと」の説明を市が行わせていただくなり、また、チラシを作るなどして、ぜひご利用いただけるように、市の方も、PRについてはご協力させていただこうと思いますので、ここに居られる方もご協力をお願いできればと思います。

(委員) 私はちょっと現場の視点からお話させていただければと思うんですが。色々試行錯誤して道を変えたりする中で、前回のときにもお話をもらったんですけども大学のところも、いろいろと声があったときに、その大学の方に上がったらどうかなというような話もあったりしたんですが、今回またしても、通過するだけなんかなというようなこともあったりしたんで先ほどお話もあったようにやっぱその利便性、考えるのであればもう少しやっぱりちょっと議論を重ねたほうが、よりやっぱり市民の皆さんの声を拾い上げた方がいいんじゃないかなというのが1つと、それから先ほど言った第4号議案なんですけど、ここで一応休止、もちろんバスなんですけど、来年の4月一応休止という形なんですけどもしそれが例えば復活してくれと。今この「ら・くるっと」がずっと運行しているというような場合になった場合、どういうふうな判断されるのかなというのが、もううちもそのバスの運転手が先ほど、人数がそろえましたって言われましたけど、もう平均年齢65歳ですよ。もう5年したら70です。

その5年間は持ちますけど、じゃあその5年の先はどうするんですかっていう話がまだ全然見えてこない。

70歳の運転手が運行しておると、もう安全面にも、とてもじゃないですけど、配慮してあげないけんとなると、なかなかさっきも1周が70分ですか。今でもおそらく70分近く運転してると思うんです。

ですんで、いろいろと考える要素はいろいろあるとは思いますが、例えばこれがもう来年には運行するんですという話なのか、それともまだまだ

今言う、考えていって、いろんなことを吸い上げてやっていくんか、ちょっとその辺のあたりをちょっと聞かしていただければなと思いますんでよろしく願いいたします。

(事務局)

まず1点目が、公立大学のところですね。

確かに先ほどおっしゃられました通り、72分かかってるのが現状です。

そこに上がっていくと当然時間も多分かかってくるということと、あと抜ける道があればですねなかなか現実的な話になるんですけれども、今の段階で、大学まで上がって回って降りてくるようなこととなるとですね、時間もかかってくるというところで、意見として今回聞かせていただいて、可能であれば、そういったことも検討させていただけたらというふうには考えます。

あと、いつからということですね。今回出させていただいて、案を揉まさせていただいて、一番初めにもちょっと説明させていただいたんですが、令和8年中ぐらいを考えていまして、早く協議が進めば、4月っていうことも考えられますし、なかなかちょっと協議が前に進まないということになればですね、ちょっと遅れると思うんですが、事務局といたしましては、8年中、いうことで検討させていただいております。

(委員)

あといろいろと走っていただければいいんですけども、いろいろ新設されとる中で、重複する路線。

先ほど1日当たり何人乗られとるかということ調査されとったと思うんですけどこれもう重複も全部含めて1日何人、例えば外回り内回りの全部の乗車人数が1日何ぼというカウントするのか、外回りだけ内回りだけの人数のカウントをしていくのか、その辺の認識はどうなんですかね。

(事務局)

先ほど調査さしていただきましたのが、まだ内回りってというのが実際できてませんので、外回りのこの緑のルートの実際乗った調査ということでございます。

ですので現在のルートでお調べさせていただいたというところでございます。

(委員)

一応フィーダー系統になると思うんですけど1日間おそらく百何人の目標の数値が出とるんですけど、それ今聞いたのは合算でいくのか、今言ったように分けていった部分でいくのか。

重複するところがあるんでそのカウントの仕方というのが、どういうふうな感じになるのかなと。

(専門員)

今この「ら・くるっと」は1系統がフィーダー系統になってると、これ皆さんご認識の通りかだと思いますんで、仮にこれを変更して2系統を2つともフィーダー系統にしようとする場合はそれぞれの系統ごとに補助対象になりますので、1つの系統ごとに目標を立てていただくということになります。

これまだ、先ほどの事務局のご説明の中で本格的な協議は皆さんの意見を

聞いてからこれからという形をお伺いしておりますけれども、本格協議の際にはこのフィーダー系統の変更に関する協議もあわせてしていただくようになりますので、そちらの方も一緒にお願いできればと思います。

(委 員) その目標値というのは、別々に考えても、同じ百何人という目標値なんですか。

(専門員) 現状の系統が例えば目標 100 あったとして今回、次の変更で運行回数を仮に 2 倍増やしたとします。

利用すると、今までの利用実績とかも踏まえて適切な目標値を立てることなんですよ。200 にするのか 150 にするのかってのはこの協議会でまた議論していただけたら。

今回の変更案、外回りルートでは、フリー乗降区間を設けるということで、これあくまでも案ということで予定されておりますけれどもフリー乗降というと当然切り込みのないような場所であつたりとか、あと、若干道が狭いような場所で、乗客を扱うパターンになるかと思うんですけども、そのあたりの安全性に関しては、ちょっと専門員の立場として、ぜひ、しっかりご確認いただけたらと思います。

特に小学校だとか中学校が周りにあるような場所におけるフリー乗降に関しては、子供たちが急に飛び出したりすると、手を挙げてバスを止めるというパターンになろうかと思しますので普段止まらないところでバスが停まるというところになろうかと思いますがそこの辺りは、安全面の配慮という部分に関しては新見の警察署さんとバス事業者の運転手さんに聞いていただくのが一番いいのかもしれないんですけどもそこはしっかり、調整していただいて、皆さんの意見聞いて他の場所もフリー乗降にするんだということでしたらそこはしっかり押さえていただけたらと思います。

(委 員) 先ほど大学上がらないのかって話で上がって中にくるっとして帰ってくるっていう話があったんですけどそれちょっとそれで思い出したんですけど、社協のところも、駐車場の中入って転回する予定なんかなとは思いますがこの図で見ると、中が多分昔より回すところが少なくなっている。ちょっとバス回すのきついんじゃないかなと思うんですがいかがでしょうか。

(事務局) 社協につきましては事前に車両を持っていきまして、転回させていただいたのと、あと社協の事務局長などと相談させていただいて、もし入ることになったら、今の駐車スペースをもう一度引き直して、バスがバックとかせずにぐるっと回れるような、線を引くというところまで話が一応できるということでございます。

(会 長) 地元の人じゃないので、できる質問なんですけど、これ、広瀬とか運動公園口とか行く必要あるんですか。

もう行かなくていいんじゃないですかっていう質問なんですけど。

要はこれ、今見てるとこのオレンジのラインというか内回りというやつ

が、22 番 23 番 24 番 25 番と行きますよね。

この区間でほとんど乗らないみたいな形だと全体の 8 割の方が、この黄色い内回りのラインの中で移動してますみたいな説明だったんだけど、誰も乗らないのにひたすら引き回されるっていう、みんなが引き回されるという事態になるんじゃないかなと思って。

さらに言えば社協ですね。ここもうこんなことする必要あるんですかっていうのが、質問です。

今 120 人 1 日乗ってるということが、こうしたときに、これ何人増える予測を立ててらっしゃるのかと。

だから、広瀬も含めて路線を増やして、その分移動時間が延びると。

だから同じ例えば新見駅からサンパークに行こうとしても、数分ずつ、増えていくわけですね。

なのでそれだけのことする価値があるんですかっていう意図なんです。

(事務局) まず 22 番の宮地町上から運動公園口までの区間につきましては、24 番の千丸のところまでは、結構、家があります。

先ほど共生高校とも近いということで、この辺については需要はおそらくあるというふうに見込んでおります。

ここの地域につきましては、以前から地元の方から要望書が実際出てきてる地域でございまして、七、八年ぐらい前ですかね、地元の方で、要望書出していただいたというような経緯もございます。

そこで会議にその時もかけさせていただいて、1 台ではちょっと時間的に無理ということで、却下ということになった経緯もござのあるところでございます。

もう 1 つの、社協につきましては、社協に実際行かれる方もおられるんですけれども、社協のちょっと下の方にですね、県営住宅というのもございまして、こちらにはちょっと書いてないんですけれども、需要としては、幾らかあるのではないかなというふうに思います。

最後の広瀬のところですが、今現在石蟹駅で運行を終えたバスにつきましては、防災公園 49 番のところ、休憩を挟んで、次の運行に備えているというのが現実です。どっちにしてもこの、休憩のところの防災公園に行くということになりましたら、この 46 番の石蟹下ですが、こちらの方は、近くに病院にございまして、こちらの方にも行く需要もあると思います。

ということで、ここをちょっと時間かかるんですけれどもぐるっとまわしていただいて、行ってはどうかというところで案を作らせていただきました。

(会 長) 要するに何人になるんですか。

(事務局) 人数につきましては何人っていうのが、なかなかちょっと計算できないことといえますかわからないところなので、そこは試算といいたしてもそこ

まではできてないのが現状です。

(会 長) 近くに家があるから乗ってくれるだろうみたいな非常に甘くて、いや家あるけど今そこにいる人はバスなしで動いてるわけなんですよ。そこに走ったところで急に乗りますかみたいな話が一方であって、こういった瞬間に数分ずつ毎回毎回かかるみたいなところもあるので、これ本当に大丈夫なのかなということなんですけどね。もう1つはこれを外回りと言ってる、例えば25番まで行くやつね。もう新しいところ全部外回りでばさっとやっちゃうみたいなのも1つの手かなとも思うんだけど、そうすると今度は往復の時間が90分台に伸びるんでしたっけ。

ですので、1日のこの運行回数がどれぐらい減るのか。そこを本当はシミュレーションして欲しいんですね。

黄色でやったところは実は頻度がものすごい増えるんじゃないかとかいうようなところもあって、特徴がはっきりとわからなくなるんですよこれ。黄色がその運動公園までいっちゃうと、どっちも長いみたいな話で、片方はこっちへ行くけどもう片方はいけないみたいな話になって、実は結構わかりにくいみたいなところもあって、8割の人がもうほぼそこで動いてるんであればそれ用のピストン便っていうか早いやつを出して、広域便みたいな感じでね、緑で走らせるみたいなやつだって本当はあるかもしれない。ただ同じ道通ってるんであんまりこう差別がどっちにしてもできにくいんですけど。

少しく考える余地あるんじゃないのかなっていうような気はしました。やっぱり数字として、本当に当たるかどうかは別にしてですね、そこにどれぐらい住んでいらっしゃって、今までのところは人口千人当たり何人ぐらい乗ってくれてるから、今度増やすとこれぐらい増えることを期待してまずぐらいの説明欲しかったなと。

実際そこで調査してくれとまでは言ってないんですけどシミュレーションぐらいはできるんじゃないかなと思いますので、次回までに、少しそこも踏まえて考えていただきたいな。

あんまりお客さん乗らない1日1人か2人なのに毎回毎回こう入っていくっていうのは、多分乗ってる人、相当嫌がる話だと思いますので、よろしくお願いします。

(委 員) すいません今の話と重複するような話なんですけど、その話でいくと22から25の間もすでに備北バスが走られてると思うんで、その乗降状況とかは調べられるんじゃないかなと思いますんで、そっから引っ張ってくれないのかなと思ったりもしますし、その要望があっても乗らなかったもよくある話だと思うんでその辺もちょっと気になるところでありますんで、しっかり検討していただければと思います。

(委 員) 「ら・くるっと」に乗ったことがないので、一生懸命考えるんですけど想

像が全然できないんです。

例えば内回り外回りと仮に決まったときに、試行というか、ある期間をやってみるとか、それでまた見直してみるとかというような話はないんですか。

(事務局) 試行運転は、確かにおっしゃられる通り、乗合タクシーでもですね、実証運行を1年間させていただいて本格運行ということもありますので、その考え方は、実証運行で入れて、それでやって、意見を聞いた上でっていうのは、大いに考えられることなんで、検討さしていただければと思います。

(委員) 一番初めのところでもう検討されてたようなんですがやっぱり北回り便、南回り便で分けてしまったほうがいいんじゃないかなと。
先ほど高尾の方から南の方まで引き継ぎで乗っていかれる方が4割ぐらいで言われましたね。
多いということで、それはちょっと、検討やめられたようなんですが、乗り換えにしても、そもそも安いのでそこは行っていただけないのかなということはどうでしょう。
あとは降りるときに乗り継ぎますよって人には何かチケットですとかっていうこともできないんでしょうか。

(事務局) 確かに、100円という料金は安いんで、あれなんですけど、ちょっと今回この場では書かなかったんですけど令和5年の10月ですかね、法律が改正になりまして、今度こういう路線を変更とかする場合には、運賃の協議ということで、この会議とは別に運賃協議会というのを立ち上げまして、協議を行うというふうになりました。
新見市内のこの会議もそうなんですけれども、その会議っていうの今まで1回目やったことがないんです。
ですから今回路線をいじるイコールお金も、議論してくださいねっていうことになってますので、その場でまた、今回ではないんですけども、次回大体のルートが決まりましたら、そういう会議の場でですね、100円にするのか、もう少し高くするのか安くするのかっていう場で、実際乗り継ぐときには、こうするとかいうことの議論は出てくると思います。
委員さんがおっしゃった通り、乗り換えを考えなければ確かに、すごくいいことかなと思うんですけども、乗合タクシーをずっと運行して事業者さんとかに聞いていつてる中で、非常に乗り換えをやっぱり嫌がられるというような傾向もありまして、そこをどういうふうに生かしていこうかなというところは今後の検討課題でありますので、今の北南ルートの方がいいっていうのは、1つの案としてまた検討さしていただければというふうに思います。

【協議事項継続審議】

5. その他

- (事務局) 今日の議題ではないことなのですが、今年度新見市制施行 20 周年を記念しまして、にいみ公共交通フェスタというものを、11 月 22 日の土曜日、この南庁舎の駐車場をメイン会場にして、開催する予定としております。
- 主なものとしましては、芸能人を呼んで、鉄道関係のトークをしていただくものと、子どもが喜ばれるミニサンライズ号っていうのを J R 山陰支社から借りてきまして、そういった運行ですとか、市内の「ら・くるっと」や、乗合タクシーなんかの展示などを予定しておりますので、委員の皆さんまたパンフレットといいますかチラシができましたらご案内させていただきますので、ぜひご参加いただければと思いますよろしくお願いいたします。
- (委 員) 今芸備線の関係で、週末哲西で乗合タクシーを運行しているということをちらっと聞いたんですが、現状利用があるんでしょうか。
- (事務局) 最終的に数字をもって判断するような部分にはなるかと思うんですけど実際、運行してないときも、土日の乗合タクシーを運行してくださいという要望は、かなり出ておりました。
- それも含めて、今回、土日に乗合タクシー実証運行しているんですが、日によって人数ばらつきがありますが、概ね土曜は少し利用があって、日曜はほとんどいないといった現状です。
- 土曜日はお昼まで診療所が開いていたりというのも、理由かもしれません。
- (委 員) その間、何かその地域でイベントがあったりしてそこで特別利用されたとかっていうことも特にはないですかね。
- (事務局) 今の時期、芸備線の実証事業期間中にまず周遊バスを走らせているので、基本的にそれで駅と道の駅と鯉が窪湿原をつないでおりますんで、まず普通に電車から降りられた方は、周遊バスを利用いただくのかなと思ってます。
- その中で、乗合タクシーは、例えば、三光正宗さんに行ってみるとか、ちょっとそのルートにない若山牧水のところに行ってみるとかっていう利用の仕方を想定していたんですが、なかなか皆さんの周遊バスには乗っていただいてるんですが、市外から来た特に観光の人はあまり、乗合タクシーには乗っていただけてない状況で、おそらく多分利用されてる方が、発着地を見ると自宅とかとなっているので、哲西の方なのかなと思われます。
- (委 員) 先ほどの哲西の乗合タクシーを土日運行されているっていうのは、哲西支局管内の人たちへの PR は、どんなふうにされたのかというのと、それから、同じく乗合タクシーが土日に動いているんでさっき、観光客の方も何か利用できるようなお話をされてましてね。それは、観光客の方への周知の方法はどんなふうに、されていたのかなっていうのを教えていただきたいんです。
- 先ほどの井倉駅から満奇洞っていうお話も出てましたけど、それも同じよ

うに、観光客の方に乗合タクシーが利用できるっていうのを周知するっていうのが、非常に難しいなっていうのわかるんですけど、そこところが、できると、今回の哲西も、満奇洞への利用も、うまく使っていただけるんじゃないかなと思うんですが、どんなふうな方法で周知をされたのか教えてください。

(事務局) 哲西地域の方への周知につきましてはまず、一番最初は、チラシで、実証運行が始まりますというところに合わせて、二次交通で周遊バスを運行します、乗合タクシーを土日祝日にも運行しますということで、周遊バスについてはダイヤ、乗合タクシーについては時間なんかを、記載したものを、チラシを各戸に配らしていただきました。

それで、7月の下旬に配った次第でして、その後、8月の市報に載せて、これは市内全域の方に周知させていただいております。

さらにですね来訪者の方も含めて、インターネット、市のホームページの方にも掲載しておるんですが、なかなかそれが十分かと言われれば、まだ、周知の方法もあろうかと思います。

また、J Rさんにも協力いただきまして、岡山駅、倉敷駅、米子駅にも、周遊ルート、この便で来ていただいたらこういうコースが楽しめますよというルートを記載したようなチラシを置いて置かしていただきまして、実際に来ていただいた方で話を聞いたらチラシ見たルートを辿ってるんですというようなお話もありましたので、そういう広報がなかなか、たくさんの方が来てないのは、現状なんですけどPRも、見てきていただいている方もいらっしゃるということで、できるだけまた今後も広報は力を入れていきたいなと思っております。

(委員) 芸備線を利用するということで、哲西も、結構今から10月、11月と、結構大きなイベントをして、10月はハロウィンのイベント、それから11月は肉の日っていう、イベントがあって、新見から矢神駅に降りて道の駅までの、二次交通を使っていく。そして一生懸命もう哲西地域の人みんなもう、みんなで芸備線を使うっていうんで、備後落合までみんなでグループで行ったり、何でも乗ったりしてみんな利用するようなことはみんなやっております。

それだけ芸備線も大切だなっていうのがみんなもう思ってますのでみなさんもよろしくをお願いします。

(会長) 芸備線先ほどの報告事項でも報告していただいたような話今動いておりますので、ぜひですね、皆さんも乗る機会あれば乗っていただきたいなと思います。

何かイベントがあったときだとか、この廃線の議論になると、全国から無くなる前に乗っておこうっていう人がやたら来るんですね。

問題はそこじゃないんですよ。

地元の人が乗るようになったかどうかがポイントで、そこを見誤るとろく

なことにならないので、ぜひ、今たくさん乗ってるからいいやじゃなくって、あの人たちは、無くなるから来てるんで、そうではなくて地元の人たちがどれぐらい乗るようになったかなっていうのを、そこを意識していただきたいなというふうに思います。

6. 閉 会

以上